

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	8	大学等名	仙台高等専門学校
テーマ	テーマⅠ アクティブ・ラーニング		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、事業を2年ごとに、導入・成長・評価改善の3フェーズに分けて実施し、「導入フェーズ」ではアクティブ・ラーニングのための授業マニュアル整備、FDインストラクター研修、教室整備等がなされ、「成長フェーズ」でのアクティブ・ラーニングの実質化を経て、「評価改善フェーズ」に至った。この6年間で、教員の教育能力開発、カリキュラム開発、教育改善に取り組む組織体制構築、情報発信等、顕著な事業の進展がみられたことは高く評価できる。また、平成29年度の1学科8コース制への学科改組にカリキュラム改善・授業改善が反映され、大学改革の加速につながったことも高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、各年度の計画に基づき、着実に事業が実施されており、フォローアップ報告書で課題とされた「学生能力の向上に関する客観的評価の継続的な実施」については、ジェネリックスキルを外部テスト、学生自己評価、教員による評価の3者間の相関分析を行いつつ追跡調査を行うなど十分に評価できる対応が行われている。また、任意指標のうち、「アクティブ・ラーニングに関する研修会等実施できる能力を有する教員」はユニークな指標として、補助期間前半のアクティブ・ラーニングの普及に貢献したと評価できる。なお、アクティブ・ラーニング型と従来型の最適な授業の組合せについては、教員・学生の双方から検証を行っており、今後も継続し改善されることが期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、全学的なPDCAサイクルが機能する体制を構築し、補助期間終了後は恒久組織としての「教育改革推進センター」が教育改革を推進する体制を整え、さらに、特段の費用負担が発生することなく発展的に事業が継続できる体制の構築もなされていることは十分評価できる。

事業成果の普及については、学生プロジェクトや技術職員との協力による教室の改修、学生BYODの活用などによるコストを抑えた学習環境の整備手法、「アクティビティ+CBT」、「授業評価・即時改善ツール」等は他高専・大学にも参考になる取組である。さらに、双方志向型FD、アクティブ・ラーニング先導教員によるFDなどがコストを抑えた現実的な手法として、既に他高専・大学での導入に協力していることも高く評価できる。なお、ジェネリックスキル測定については、他高専・大学と連携しつつ、早い段階での内製化とその普及が期待される。